

2000 年 1 月から 2022 年 12 月に

産業医科大学病院皮膚科を受診された患者さんへ

産業医科大学では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認、病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った病理検査、そして撮影した皮膚病の画像を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用することにご了解いただけない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。

研究課題名	皮膚疾患画像ナショナルデータベースの拡充とAI活用診療支援システムの開発
研究機関名	産業医科大学
試料・情報の提供を行う研究機関の長	産業医科大学 学長 上田 陽一 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	産業医科大学 皮膚科学 教授 澤田 雄宇
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2033 年 12 月 31 日
対象	2000 年 1 月から 2022 年 12 月に産業医科大学病院皮膚科を受診された患者さん
利用する情報	性別、年齢、発症時期、身体所見、病理データ、臨床写真
研究の概要	レントゲン写真や CT 画像を人工知能 (AI) により自動診断するシステムの開発が進んでおり、近い将来 AI による自動読影が可能となると考えられています。一方、皮膚科領域はテレダーマトロジーとも呼ばれる遠隔診断システムが民間業者によりすでに実用化していますが、これは AI ではなく皮膚科医が写真や臨床情報を基に遠隔診断しているため、多くの症例を短時間に処理することはできません。AI の開発には多量の皮膚病の写真が必要であることから、2018 年から日本皮膚科学会が主導し、国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) による研究費を財源とした皮膚病を集めた国家的なデータベースを作成する研究を行って来ました。このデータベースは臨床写真、ダーモスコープ写真、病理組織写真、そしてそれらの症例に紐付けされた臨床情報が集積されます。そしてこのデータベースを使って様々な皮膚病に関連した AI の開発を進めていきます。
個人情報の取扱い	収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を含みません。患者さんを特定するための情報は作らず、追跡が不可能な状態にしております。そのため個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。 提供先が外国の研究機関や外国の企業の場合には、その国での個人情報の保護規定が定められていることを確認した上で提供します。 また、保管される情報を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審

	査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	産業医科大学 皮膚科学 澤田 雄宇 住所：福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1 TEL：093-691-7445

【共同研究について】

この研究は、他の病院や研究施設と共同で行っています。

対象となる患者さんのデータは、名前や住所など患者さんを直接特定できる情報を含んでいません。提供時にはハードディスクに保存した電子ファイルを宅急便など追跡が出来る方法で輸送することで共同研究施設に送られます。多くの情報を解析することで、医学・医療の発展に役立つ成果が得られることが期待されます。

【利益相反について】

本研究の利害関係については、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており、公正性を保ちます。

【研究組織】

愛媛大学	藤澤 康弘
大阪大学	藤本 学
東北大学	志藤 光介
国立情報学研究所	佐藤 真一
理化学研究所	山本陽一郎
東京農工大学	清水 昭伸
慶応義塾大学	大内健嗣
東京女子医科大学附属足立医療センター	梅垣知子
日本医科大学武蔵小杉病院	荻田あづさ
琉球大学	高橋 健造
京都大学	栢島 健治
浜松医科大学	本田 哲也
山梨大学	岡本崇
高知大学	中井 浩三
金沢大学	松下 貴史
産業医科大学	澤田 雄宇
群馬大学	安田 正人
滋賀医科大学	藤本徳毅
熊本大学	福島 聡
鹿児島医療センター	松下 茂人
藤田医科大学	杉浦 一充

金沢赤十字	小村 一浩
横浜市立みなと赤十字病院	渡邊 憲
南和歌山医療センター	南 宏典
東京大学	吉崎歩
新潟大学	長谷川瑛人
信州大学	皆川茜
九州大学	伊東 孝通
大阪公立大学	鶴田大輔
虎の門病院	林 伸和
奈良県立医科大学	新熊 悟
平塚市民病院	栗原 佑一
JCHO 大阪病院	竹原 友貴
福井大学	笠松 宏至
静岡済生会総合病院	松本 賢太郎
筑波大学	乃村 俊史